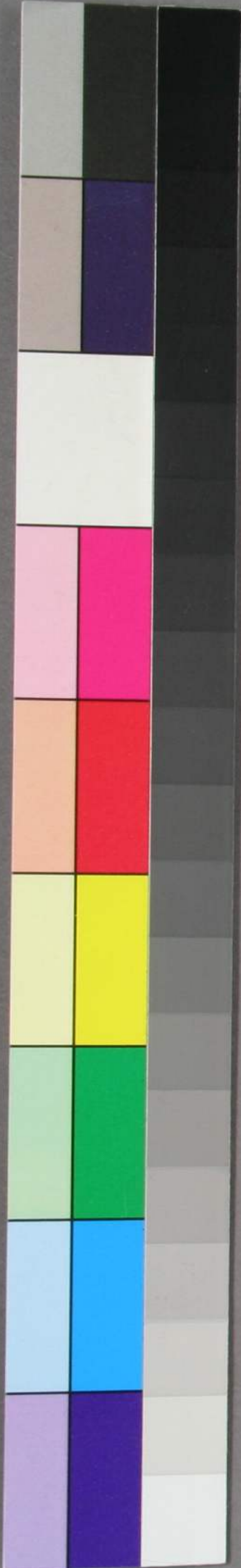


五十組之記

義

初秋香 仲殊香
暮秋香 名月香
空月香 松月香
鈴虫香 重陽香
有明香 徒然香

多 9
1.338
32



多
1338
31



初秋 五十組之内 義

初秋香

仲秋香

暮秋香

名月香

空月香

松月香

鈴虫香

重陽香

有明香

徒然香

香

香

香

香

香

香

香

香

香

香

十

初秋香

香五種

香

香

香

香

香

香

秋風とて

二色俵内二色試

新秋とて

右同り

先姑二種試して本香二色お交ま色とて

初一三九色よませ十包とて出ま

一二三の香十粒香のこく試みの札抄

秋とて新妹とて減合冬れお年一十二種と

客香とて南り今人字の下まの金の人の

詩歌を書客斗一南り一二三金よ成の歌

と書一二三金よ客ち今詩斗と書ま客

秋風出れ秋風の待をて記の書り書新秋

出れ其情多しを記の筆に書けり外に
順手為記録の面を可く詩をたのむ

秋風詩哥

蕭颯涼風興衰髮誰教計會一時秋

秋まぬや免ふさかしくみぬ

せ乃れはくそおしるの終ぬふ

新秋の詩

槐花雨濕新秋地桐葉風涼歎夜天

うさつやと物きかぬよ木のたもちふ

秋のそく免ふさかしくみぬ

初秋香之記

二二三一秋三一一二二三

札

一二三秋新二三三一

蕭疏涼風興表髮
誰教計會一時秋

札

一二三三秋二二一三一

秋きぬゆめりかきと秋の
心ゆきまをさしと秋の

蕭疏涼風興表髮誰教計會一時秋
秋きぬゆめりかきと秋の心ゆきまをさしと秋の

月日

出香 名衆

記録先子准王

色依月乞成

左同り

色依月乞成

仲秋香

香四種

一

五包徳内百包試

二

右同

三

三包徳内試

仲秋香之記

秋

香

秋

香

秋

答して

一色徳同め

右試終るゝ出香十二包左のこゝに結公合を
出まゝ金一札をそのまゝに記録し
二種つゝ名目書金一左のこゝに

二一と結公

待宵

二二と結公

望月

三三と結公

不知夜

一二と結公

居待月

二一と結公

立待月

三ウと結ひ

卧待月

右のこゝ答人教多きと記の本香と先
しきと結ひのやと海しきと南を
書附て付の在りしと記の面を
可考左のこゝ

仲秋香之記

一ニ
ウ三
二ニ
二一
三三
一一

札名 札

立待月卧待月を月居待月不知夜待月 全

不知夜待宵を月居待月卧待月 二

月日

出番名乗

記録の順序

杉林香

暮秋香

香四種

一

四包徳月一包試

二

右同り

三

右同り

春とて

一色徳安氏

右十種考の如くは決りて先本考といふ
記録より不南の不言叔本考の如く
一二三の文字より書銘の如く一と秋雨
と云二と秋霜と云三と秋音と云春と秋

時と書ゆ一叔又秋雨と種も不南と
秋月と書秋霜三種と云秋田と書秋音
三種と云不南の種風と書春不南の常盤山
字の下と書ゆ一其下と云叔書より余の
暮秋と書ゆ一為記の表より終り考左の

一

暮秋香之化

フ

札

秋露

秋霜

秋霰

秋雪

秋露

秋霜

暮秋

札

秋露

秋霜

秋霰

秋雪

秋露

五

月日

出香名

記尿乞子煖子年

春秋香之化

山... 春秋
... 春秋
... 春秋
... 春秋

名月香

香四種

月

花

雲

壹包徳内一包試

風

右回り

右試二種終る月の香を別陰五丁残
十二包と打ませる其内より何とる共一
包のより海十包の中へ月の香を入文合
炷也二包で一組して十二包六組あり

出香の次の中を風雲とるもいふ

行一月を試る中始始るかちの

右の通子假とし五十二包終る名無紙

子徳也月を試るとる月ハ一包花

ハ四包中と記す故に能くかる記

限より一組の名をきき書附ゆきし出香より一組の名を

二行より書附

組合名目

月と雲と

都のたつ

一人中、正五三幸の幸り
正五二ツ

月と花と

精柄よりうり

二人中、正五四幸の幸り
三ツ

月と風と

こかのかみ

一人中、正五三幸の幸り
二ツ

花と花と

おとぬ水

一人中、正五二幸の幸り
一五

花と雲と

雲のあし

右回り

花と風と

かしの星

右回り

風と風と

野鳥の行来各右回り
雲のあし

舞う舞う 雲の海路 右回り

雲の風 一時の 右回り

右名目九つあることは一庄入用六つあり

香の土初後の二箇あり 取合 数ありあり

雲風 一時の風雲 出ま 記録を一時の

書多し 録は 煥平 記録の勝負 点星川

今や 点つて 書数の多きこと 香の

うき 成り 記録度 多し人 梢より 入る

の 点 四つ 入る 点 三つ 外 月 の

半 あり 有る こと 一人 都 の 左つ

正点ニツシかの鏡同外ハ二ツク多ク半高倍点
一宛之但一月ハ正点多ク二点半准其レ

一級の名多ク南ノ方ニシテ初後の中ニ長ク
有ルルハ星一ツヲ得ル一星ハ一星ナリ
の点ニ減ルル一ノ不方ハ点同多ク星
と付ル為紀の表ナリ又ある多ク

名月香之記

雲 花 月 花 花 瓜 雲 雲
雲 風 花 花 瓜 雲 雲

名
雲の魚 楠 雲の魚 一ツ
点高

名
楠の魚 雲の魚 雲の魚 一ツ
星九

名
雲の魚 雲の魚 雲の魚 一ツ
星六

月日

出香 各集

星の片南の一ツ又石守一星坊多し
 不_レ公の奇
 板の_レ正_レ点_レ走_レ何_レ一_レ点_レある_レ二_レ点_レ都_レ之_レ
 片南の_レ信_レ兵_レの_レ代_レ一_レ点_レ多_レ星_レ同_レ一_レ点_レ多_レ
 星_レ一_レ点_レ美_レ川_レ一_レ点_レ板_レと_レ信_レ兵_レ一_レ点_レ多_レ
 一_レ点_レ有_レ多_レ

空月香

香四度

空月香

空月香

空月香

空月香

空月香

空月香

空月香

香四種

空

罍俵内一色紙

雲

右同

星

右同

月々

一色と伝へて

右如き一二三と包て各一包入十包打交て
十粒香のこもす如くて記帳書付せし
扱先本香をいもて記録する一扱試香一二三
と如き包一試如くてもいもすの通る試の

一二三と包ていもすれ打交て
れよりすの後に記帳する包一両方の時をいもす
すより他記帳の方をいもす
何の如く後とす南とす後の試とす
南とす不成始一様とす後一様南とす

三種よりなるを納涼香 同系のうち本号
 と先づいへば故きより為記録の面を鑑
 可考又此等の二種のうちの十種。了ら
 たり。始十枚の内。二種のあり有り。後の
 三種の内。つらふあり。二枚あり。三種あり

よき三五より記録左のよき

空月香之記 星月

空雲 空雲 空雲 空雲 空雲 空雲 空雲 空雲 空雲 空雲

名 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一年

名 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一年

本月日
出香名乘

記深是子腹中魚

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

松月香

香四種

松

寫色傳四色紙

風

右同紙

雲

寫色傳四色紙

月〜〜

一色と徳を徳

右一二松風の試二色と常の出香の〜〜に
包除五ヶ 松風雲 三包つ 月一色十包お交
松風 常の十粒香の〜〜 試るよれと
十粒お交りて 始除五ヶ 松風の試香二色

能文下一包取中付或ハ後の二包 松の香の付

出香 雲 松風 松月 風雲 雲 松風 試松
九粒 一 二 三 二 一 三 一 二 二 試二

月九粒の試の香二粒香と付付の記録

二四九と三子書付出香と付の二粒 試松

試風〜〜も書付〜〜外先〜〜 記録

よし二ニウき松雲月とせ魚

雲はれたふはる輝風を

松の月と人との郷

は霧のつゆまぬくの松香の春風の道法

そはる春のつゆまぬくの松香の春風の道法

札 松雲松月雲月松
松雲松月雲月松
松雲松月雲月松
松雲松月雲月松

札 松雲松月雲月松
松雲松月雲月松
松雲松月雲月松
松雲松月雲月松

札 松雲松月雲月松
松雲松月雲月松
松雲松月雲月松
松雲松月雲月松

松月香之記
松月
雲月
松月
松月
松月
松月
松月
松月
松月
松月

松雲松月雲月松

札

松 雲 凡 松 雲 凡 月 凡 松 凡 松

星 五 七

札

松 凡 雲 月 凡 松 雲 凡 凡 雲

星 五 二

月 日 出 香 名 衆

記録を以て懐き余 但れをのりもに成り

今 月 心 正 止 又 亦 遠 星 あり

雲 月 心 正 止 又 亦 遠 星 あり

月 心 正 止 又 亦 遠 星 あり

余の人の心の中は 歌一首書余 始のれり

不 疑 南 下 下 文 事 三 点 下 二 点 あり

二 点 下 一 点 下 一 点 下 一 点 下 一 点 あり

角一ら南の所あり三種ありつるは下島
の事一其外に海を表すは能く又
一説に出香と松風雲月を書銘しすと三
三各より書ありと能く後一は松風雲
月より書あり

又十種香あり松風雲の試文を後一種
類あり歌の意を本意せしむ右試十種香
のうち雲の試のなすは右の如く始すは
後人の心より是れを分ちし

鈴虫香

香五種

月と香

二包徳内一包紙

環今と香

二包徳内一包紙

松虫と香

右同紙

鈴虫名付

二色俵袋

客名付

一色俵袋

右試読く、常盤月一色、琴二色、松虫一色、
各一色、五色と打交、内一色、秋四色と二色、
分て、主扱松虫一色、鈴虫三色、四色と打交

又二色、つよ分、文知の二色、つよよ、二色、つよよ
ま、せ、四色、つよ、二色、つよ、つよ、つよ、つよ、記
紙、書付、出、鈴虫、客、ハ、一、種、二、種、三、種、
知、客、ハ、外、試、合、書、付、記、録、知、の、四、色、
よ、鈴、虫、多、く、出、れ、記、録、の、由、子、左、の、歌、を

一頁書

おろしこの秋といふは
あつたてのしるしを
たしむるに
あつたてのしるしを
たしむるに

後の四色は
松虫のしるし

上は海より
松虫のしるし
あつたてのしるしを
たしむるに

又銘しす
名目あり
左のしるし

松虫のしるし
秋好のしるし
銘虫のしるし
女三宮

琴平のしるし
源氏
月とす
柏木

春とす
魚のしるし
松虫

右記の面々
左のしるし

鈴虫香之記

陰月 琴 冷虫 松虫 冷虫 少 琴

月 琴 松虫 冷虫

名

女三 桐木 原氏 中宮 中宮 虫真 原氏

鈴虫

名

原氏 桐木 女三 中宮 女三 原氏 虫真

四本

名

原氏 女三 桐木 中宮 女三 虫真 原氏 中宮 原氏 女三 中宮 虫真 原氏 女三 中宮 虫真 原氏

月日

出香名衆

記録先ノ頭を身一 全の人ハ点教ノ如鈴虫ノ

書多ク 其餘ノ教ノ誤ル身一

録出香之記
録出香之記
録出香之記

録出
録出
録出

録出
録出
録出

録出
録出
録出

重陽香

香四種

一色徳内一色徳

二色徳内二色徳

初三
同成

後三々

右回り

右試紙より出香の色を交りて一、二の香の
試合するなり。三の香は左試紙より出香の色
を交りて初三々。後三々と後三々。是れを
角一々試紙より記録する。角一々あり

角の右目有左の二々

一、二の香三種共通の香 燕々書

初三の香同様の香 柔々書

後三の香同様の香 雨々書

一の香斗角の二々 我々書

一不當二の香斗南ふ

白露路書

初後三の香二種つ文六

幾代書一の香

全の人おの下る

重陽書

燕知社日辞菓去

菊烏重陽冒雨開

家為のキくのまゝるり今

いく代つるく周

記録思致く後燕菊雨多き時記乃

子詩と書年一又我若白露幾代多

よとい一書年一又西人扱乃今

人半あはれ清きと書年一又点法感
 一の香菊の初後三の内一も不減の半も
 有る其も名目二も書年一も成
 記の西へ終る年たの香

香菊の初後三の内一も不減の半も

重陽香之記 一 二 初 後

一 初 初 後 二 二 後 初 後

初 初 後 二 二 後 初 後 重陽

初 初 初 二 一 二 後 後 後 幾人 五

香菊の初後三の内一も不減の半も

月日 出香 名集

記録之ノ順

[Faint bleed-through text from the reverse side]

重野香

有明香

香五種

有明香

紅葉香

山嵐香

右同

月より

二色語同り

客月より

一色語を試

右試香終りて出香八包の角紅葉有明炭

と打交二色つと三結と客別り

交ウ斗二色一結と試有を

中合年一外三種より試合年

本香の如く歌一首書年一左の

月のくも有明の月の月うけり

しみち吹花山おゆり

右の歌の句のくも入出香の次才と一二三付

書つたる 冬試の方と 真字より 書年
に 試の方ハ 草字より ウと書下 其後の
出に 記すあり 又 冬ウの文字より 初月
の字 何 春後の月 字 何 書し 冬一 其年一
後の月 ウと 記すあり 録の 冬ハ 有明

紅葉 嵐 山嵐より 書ウハ 試の方と 宵の月
と 書に 試の方ハ 曉と 書年一 其外 記録乃
面より 可考 月の 春に 試の方ハ 試より 也
二 点より 但し 冬ハ 冬より 下の 秋と 不入
記録 左の 也

有明香之記

あつと有明の月の子
紅葉の山
二三四五

名

有明有明紅葉山山紅葉山山宵月曉

五

名

有明紅葉山山紅葉山山有明宵月曉

全

月日

出香 名集

記録之順

徒然香

香五種

宮外閨怨

背壁殘燭

秋夜雨

三色俵安紙

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '明香' and '徒然香'.

秋夜風

右回り

上陽人 一色休庵

右試香 出香九包と打交

五粒の上 全の人の長夜徒然と書

下 全の文字書 其外 一色真と書

よ一二三の 五粒と書 全 よと書
あり る記録 と書 了 左 の

徒然香之記

秋風 上陽人 秋風 秋雨 秋雨 殘燭 秋風 秋雨

名

秋風 上陽人 秋風 秋雨 秋雨 殘燭 秋風 秋雨

長夜全
徒然

名

秋凡 秋凡 秋凡 秋而 秋而 篇 国器 上陽 寔 三

月日 出香 名乘

记录是子准生角个

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

